

●松下電器（現パナソニック）の創始者松下幸之助さんは「経営者が真実に立っていれば、自然と信頼が集まり、困難を乗り越える力になる。たとえ昨日の自分と意見が変わっても、真実を語れば説得力がある。経営者は、つねに真実というものに立たなければいけない。策を弄するようなことでは、真の経営者とはいえない。」と語っておられます。これは経営だけでなく、人生全体に通じる思想であり、いつの時代にもある真実をねじ曲げ、不自由な生き方に陥る人間の現実への警鐘です。

●今日のマタイ福音書 28 章には、イエスの復活を目撃したローマ兵が祭司長たちに報告するが、彼らはその事実を認めず、金で兵士を買収し「弟子たちが死体を盗んだ」と嘘を流布する姿が報告されています。彼らは自分の立場や権力を守るため、真実を歪めました。そして、彼らは神の子の復活という驚くべき事実を前にしても、自分の過ちを認めず、逆に嘘で固めようとした。その姿は、一見強そうに見えても、実は不安と不自由に縛られた生き方と言えるでしょう。

他方で、イエス様の十字架と復活の出来事には、そんな人間を解放し、本当の自由へと人を導く限りなく美しい神の愛の真実があるのです。自分が罪深く、完全ではないことを認め、イエスの十字架の赦しにすがる—そこに真の自由があることを聖書は伝えているのです。そして、イエス様の弟子やパウロはその真実に目が開かれ、喜びを持ってイエス・キリストの福音を述べ伝えて行ったのです。

●星野富弘さんの詩「たんぼぼ」には「どうしても必要なものはただ一つ」という言葉があります。私たちはこの世で多くのものを追い求め、力や富で自由を勝ち取ろうとしますが、実はただ一つの確かな真実「神の愛と赦しに立つこと」こそが、真の生きる力と自由を与えるのです。

また星野さんは「春（さくら）」という詩も書いておられます。

花がきれいですねえ 誰かがそういつて うしろを過ぎて行った

気がつくとき目の前に 花が咲いていた

私は何を見ていただろう この華やかな 春の前で

私たち人間は神の愛の素晴らしい世界があることに気づかず、自らの正しさや、プライドにしがみついている一面を持っています。素敵な花が咲き誇るこの春の季節、神の存在とその恵みに目を向け、ただ一つ—イエス・キリストの愛という揺るぎない真実に立って、自由に生きる者でありたい。